長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

長崎高教組第87回定期大会開催

討論で、歌で、心一つに

今、高教組の存在を職場に示そう

政治は変えられる　選挙に行こう

長崎高教組は、6月18日、諫早市高城会館で第87回定期大会を開催しました。各支部・分会の代議員52人、特別代議員3人、監査1人、本部6人が参加しました。

鍛治副委員長が、開会宣言に先立ち、会場のあちこちに貼られたポスターを紹介し、争点隠しを常套手段とする安倍政権の「改憲、壊憲」の目論見をつぶすために参院選の重要性を強調しました。その上で、政治は生活に直結しており、若者に範を示すため「選挙にいこう」と熱く訴えたのち、第87回定期大会の開会を宣言しました。

小田委員長の挨拶は、冒頭、熊本大地震に触れ、まだまだ援助が必要なことを強調し、ボランティアを呼びかけて始まりました。その後、「組織建設3か年計画」にもとづいて、すべての組合員が声かけ、対話をおこない、組織の拡大・強化にとりくむこと、多忙で厳しい状況だからこそ、時間を見つけて、集まって、語りあうことの大切さを強調しました。

次に、長時間労働の是正と非正規教職員の労働条件の改善に全力を尽くすこと、「過労死ライン」を超えて勤務するという異常な状況を克服するためには組合員を増やすことが肝要であること、また弱い立場の非正規教職員を支える重要性とともに、組合に加入してもらうことが身分を守ることにつながることを指摘しました。

最後に、「戦争法」を廃止し、「戦争する国づくり」を止めること、安倍政権の暴走を止めるために、「戦争法廃止」の2000万署名に最後までとりくみ、7月の参院選で「職場の投票率100%」を実現し、「安倍政権NO!」をつきつけようと力強く述べました。

続いて、全教中央執行副委員長の米田雅幸さんから全教執行委員会を代表して挨拶をいただきました(要旨を下に掲載しています)。

議案の提案

議事に入り、第1号から第5号議案の提案を本部が行いました。

第1号議案では、今泉執行委員が、決算の面から、昨年度の運動を総括し、今後の組織拡大の必要性、全教共済への加入者の拡大を呼びかけました。その後、前田監査委員(佐世保北分会)の監査報告があり、拍手により、第1号議案は承認されました。

第2号・4号・5号の総括、情勢、運動方針、選挙管理委員、スローガンについては、馬場書記長から一括して提案されました。主な点は、組織拡大の教訓と課題、全教共済、人事評価と賃金リンク、2015確定交渉・2016春闘交渉の前進点、県教委が策定した特定事業主行動計画の特徴点、2016人事での前進面、夏・秋・冬の教研の総括、18歳選挙権への対応、給付型奨学金県議会請願、憲法改悪阻止の闘いなどでした。

第3号議案の予算案では、支出減を説明しながらも、高教組運動のための活発な活動には支出を保証する必要性とそのための組織拡大の重要性が指摘されました。

これらの提案を受けて質疑が3点出されたところで午前の議事が終了しました。質疑の内容は次のとおりです。

①学校閉庁日の各学校への周知について

②非正規教職員の全教共済の加入について

③工業高校の県内就職率向上の指示について

「くすのき」の合唱

午後の再開に先がけて、佐世保商業の井野口代議員のウクレレ伴奏と今泉執行委員のリードでご存じの「くすのき」を全員で合唱しました。昨年10月の中四九ブロのソフトボール大会の懇親会でナガサキを意識してもらうために全員で合唱して、感銘を受けたという参加者の声を励みに、中央委員会でも、全県分会長・支部代表者会でも歌いました。長崎高教組のテーマソング、愛唱歌として定着してきたようです。いい雰囲気で、心を一つにして午後の日程に入ることができました。

午後は、高退教の萩谷会長から、350余人の会員を抱える長崎高退教の紹介で始まりました。現職の長時間過密労働については、昔流行った、「新幹線授業」という言葉を引用し、過密労働で授業に悪影響が出ているとすれば、子どもにとって不幸であるとの指摘がなされました。また、7月の参院選は、安倍政権の暴走をストップさせるチャンスとして、しっかりした審判を下すことへの大きな期待を述べられました。最後に、長崎高教組が伝統的に民主的な労組として活動していることへの賛辞と今後も民主的な労組として教職員、こどもたち、保護者、地域に信頼され続けることを強く願うと締めくくられました。

質疑への回答

①学校閉庁日については、県教委が2度にわたって通知を出し、保護者への周知徹底のためのモデル文書もつけています。ただ、校長によって対応に差があるようで、きちんと位置付けている学校とそうでない学校があります。

②非正規教職員も全教共済に加入はできますが、互助組合員でないため給与天引きができず、そこがネックになっています。

③工業高校の県内就職率アップに関わる質疑に対しては、長崎工業、大村工業、島原工業分会から現状報告がありました。業種によっては県内に企業がなく、県外に出ざるを得ないことや、県内企業と県外企業での条件の差、とくに寮の有無などでどうしても県外を選ぶ現状などが報告されました。気になったのは、工業高校の管理職が、学級減と県内就職者増との関連を気にしていることでした。

討論・採決

第2号議案を中心とする討論では、昨年同様に新加入の若い先生の発言や加入を実現した報告、また分会活動が滞りがちになっている「進学校」からの久々の参加者の発言などで大いに元気がでました。また子どもの貧困の状況や通級学級の問題などの発言もあり、今後も学習、意見交流の必要を強く感じました。発言者は、本部をのぞいてのべ20人でした。

採決では、4議案すべて採択されました。

討論の概要については次号で紹介します。

【米田全教中央執行副委員長の挨拶】

長崎の地にふさわしい「龍」をモチーフとした横断幕など工夫を凝らして、全教の一員として組合活動にとりくんでいる長崎高教組に敬意を表します。

参院選が間近に迫ってきました。安倍首相は在任中に憲法改正をおこなうと明言しておきながら、参院選ではあくまでも「アベノミクス」による経済再生や1億総活躍社会の実現を公約に掲げ、憲法改正問題隠しに徹しています。一方で、3月の防衛大学校卒業式では、みずからを「自衛隊の最高指揮官」と呼び、自衛隊を私兵化するような訓示と集団的自衛権の行使を想定した訓示をおこなっています。

昨年からの「戦争法案」反対、「戦争法制」廃案の運動の中で、国民世論の変化を感じています。活発におこなわれた国会前行動に幼い子どもの手を引いた母親の姿やシールズの象徴される若者のリーダーシップなど、今までと違う動きを目の当たりにしました。また、参院選を前に32の一人区で野党共闘が成立しました。5月3日の憲法集会は、党派を超えて大きな盛り上がりをみせました。

教育に関わっては、高校授業料の無償化復活や給付型奨学金の創設の要求など憲法の教育を受ける権利を絵に描いた餅にしないために、教育予算増をめざす「えがお署名」に全国でとりくんでいます。教職員の長時間過密労働の問題については、教員は給特法にもとづいて教職調整額が支給され、超勤をしても手当はつきません。超勤を改善するためには、人を増やすしかありません。実現するためにも「えがお署名」は重要です。

全教も「組織建設3か年計画」2年目のとりくみをすすめています。12月の「ゆいまーる全教」に全国から1000人、沖縄に集結し、沖縄に学び、全教運動を発展させるようとりくみを進めています。長崎高教組も「ゆいまーる全教」に連動して「ゆいまーる長崎高教組」にとりくんでいるときいています。ともにがんばりましょう。

長崎高教組の更なる発展を期待しています。

明日を決めるのは私たち

ー政治を変えよう！６．５全国総がかり大行動

前夜から降り出した雨はお昼前には上がり、開会の14時には晴れ間さえ見られるくらい良い天気になりました。

行動は国会正門前ステージ、農水省・霞が関郵便局前ステージ、日比谷公園かもめの広場ステージの3か所に分かれ、総勢4万人の参加がありました。私はかもめ広場に行ったのですが、広場の中は身動きがとれないくらい参加者であふれ、たくさんののぼりも立っており、歩道にも長い人の列ができていました。

開会宣言と同時に、右翼の街宣車からスピーチにかぶせるように嫌がらせが始まり、ステージ一帯は物々しい雰囲気に包まれました。そんな妨害にも屈せずスピーチは続き、14時30分の全国いっせいパフォーマンスを実施しました。

各政党から始まり、市民、弁護士、高校生、そしてシールズとスピーチがあり、あらためて夏の参議院選挙で「戦争法廃止」「安倍内閣退陣」に追い込めるように力を合わせなければと感じました。

五島定時分会
前田祥紀

参議院選挙始まる

改憲問う3分の2攻防　（毎日新聞）
改憲勢力3分の２焦点　（長崎新聞）
アベノミクス　改憲阻止（西日本新聞）

前日の第24回参院選の公示を受けて、6月23日の毎日、長崎、西日本新聞の一面見出しは、上記のとおりでした。

自民・公明与党は「憲法改正」は争点にしないと明言し、経済政策で参院選を戦うとしており、安倍自民党総裁、山口公明党代表とも第一声で「改憲」問題に触れることはありませんでした。一方で、安倍政権は、秋の国会から憲法論議を国会でおこなうと発言しています。選挙結果によっては、改憲勢力が改正発議に必要な3分の2に達することも考えられ、争点にしないまま、「改憲」に突き進むことが想定されます。3紙の一面見出しは、このような考えを反映しているといえます。

また、毎日新聞は「これまでと違う」という政治部長の署名記事を掲載しています。その要旨を紹介します。

参院選を語る場合、これまでは、解散がないので「首相の恣意が働かない民意」が示されるという点を指摘することまでですんだ。しかし、今回は明らかに違う。ただの参院選ではない。より重要性が増している。「憲法改正」という長きにわたり封印されてきた政治テーマが、具体性を持つ初の機会となるから。

最大の争点は、与野党の勝ち負けではない。衆院で3分の2を確保している改憲勢力が、参院でも3分の2にとどくかどうかだ。

選挙結果は、個別政策を超える大きな動きをもたらす可能性がある。

今回の参院選は政権選択より重い審判となる。「国のかたち」をじっくり考える機会にしなければならない。

高教組会館の壁のポスター

【新聞の文芸欄から】

足弱り　歩けぬ母と　車から
花見をしたり
穏やかな時間（とき）

また、短歌を見つけました。もちろん作者は、前に紹介した私たちの仲間です。

情景については、説明はいらないと思います。

作者の先生にお話しを聞きました。

短歌を作る趣味が以前からあったわけではありませんでした。母の世話（介護）をしていく中で、その時々の情景や思いを何かで表現したいと考えていたときに、短歌に出会いました。短歌が出来たとき、母に作品を伝えたらとても喜んでくれました。そして、母が短歌を作っていたことを知りました。短歌を通して、母との会話が増えました。会話が増える中で、母のことをより知ることが出来るようになったと感じました。母も生き生きとしてきたように思えます。とくに、短歌のことになると、教えたいことがたくさんあるのでしょうね、そして自分も質問をして母に教えてもらえることが楽しく思え、母も生きがいを感じているようです。

母の世話（介護）は、正直言ってきついこともありますし、できないこともあります。自分を責めたくなることや、知らず知らず母に辛い態度を取ることもあったと思います。しかし、きつい、できないだけでなく、違った見方や接し方をしたり、出来ないのは当たり前、きついのは当たり前、でもこんなに嬉しいことや素晴らしいことがあると思えることがあると、違ってくるなと感じています。母に教えられることがたくさんあります。

あまり頑張りすぎずに、出来ないことは周りに助けてもらったり、時には休んだりして、出来ることを見つけて、出来たことをよろこんで母の世話をおこない、母によろこんでもらえるよう、頭をひねって、言葉をひねり出して短歌を作り続けていきたいと思っています。

介護の問題は、私たちの目の前に迫ってきています。老親の介護という問題だけでなく、自らが介護の対象者となる年齢に近づいてきています。当事者にならないと分からないこと、見えないことが多くあると思いますが、自分の問題として考える必要があります。

多くの書物が出版されています。読みやすいマンガを紹介します。

『つゆのあとさき…
～特別養護老人ホーム物語』
1巻～4巻
赤羽みちえ著　秋田書店

きれい事すぎるなどの批評もあるなど評価はさまざまですが、介護士の活動を通して、家族、本人、施設等々のことを考えさせられます。

【対馬支部・歓迎会】

6月5日、豊玉町の「あなご亭」で、支部の議案書検討会、歓迎会を行いました。新しく対馬に来られた松尾紀子先生（対高）、袋良祥代先生（豊玉）を含め4人が参加しました。

アナゴのコース料理をいただきながら、職場のこと、これまでの勤務先や知り合いの先生方の話題、そして組合のことまで、いろいろ楽しい話で盛り上がりました。　一人分会の袋良先生も本当に喜んでおられました。

少人数支部、少人数分会で活動は大変ですが、頑張っています。また、離島、特に対馬ならではの課題や職場の雰囲気を知ることができ、参考になりました。

【分会だより・・虹の原特支対馬】

虹の原特別支援学校高等部対馬分教室分会の田中分会長さんから年度当初に、「分会長より、職場の皆さんへ」と題して発行した「職場新聞」が届きました。抜粋して、紹介します。

☆対馬に来て4年目です。分教室に赴任して以来分教室の分会長と、さらに昨年から引き続き、対馬支部の支部長をやっております。（月に一度のペースで長崎へ出かけていますが、それは会議や学習会などのため(＋α)です）

対馬支部は分教室の私のほかに、島内の3つの高校にも組合員がおられます。組合員は多くはありませんが、仲間の大切さを感じながら、できることをこつこつとやっています。（ちなみに対馬高校の分会長は北島先生です。）

今回は、年度初めのご挨拶を兼ねて、組合のことをを紹介します。読んでいただければ幸いです。

これに続けて、春休みの全県分会長・支部代表者会で実施したワークショップ（テーマは「長崎高教組のいいところ」「長崎高教組に入ってよかったところ」）のまとめを高教組新聞から引用し、田中分会長が加筆して、紹介しています。

他の支部や分会でも大いに参考になる、職場新聞です。B5版やA4版、裏紙でも、あまり難しく考えすぎずに、気軽に発行してみていいのではないでしょうか。

高教組新聞の知らせたいとこだけ拡大コピーして、休養室や給湯室に貼り出す方法もあります。